

# 島根県邇摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（翻刻と解説）

— 明治四十一年に作成された国語科学習指導案 —

田中 瑩一  
昌子 佳広

〔キーワード 第一期国定教科書 小学国語読本 国語教育史 実践史 読方 綴方〕

## 一、はじめに

国立歴史民俗博物館は、一九八七年、京都の古書店から一連の文書群を購入し、その整理と分析を行った結果、現在の島根県邇摩郡温泉津町の一部にあたる福光地区にあった旧家である「福富家」より出た文書であることを確定し、文書群に「石見国邇摩郡福光下村 福富家文書」と命名、同館に所蔵するとともに、一九九二年三月、文書目録を作成して一般に公表した。

「福富家」は、屋号を恵比寿屋と称した地主であり、同時に酒造業なども営んだ土地の有力者であった。代々の当主は福光村の村長、県会議員なども務めている。この文書群には、古くは十七世紀以前に遡るものも含まれており、書簡、土地台帳、年貢割付状その他の文書群は、その

当時の地方世相、民衆風俗の実態を知る上で貴重な資料となり得るものである。同館研究員（当時）塚本学氏による、文書群の一部を資料とした研究・分析をまとめた論文「幕末庄屋家の一少年——石見福光下村恵比寿屋新太郎の生涯——」<sup>1)</sup>などが既に世に問われている。

この「福富家文書目録」に「明治四十一年第二學期／教授案／擔當／福富ヒロ」という表書きの文書が含まれている。同館に許可を得て当文書の全部を解読したところ、当時の小学校における国語科（読方・綴方）、及び算数科の学習指導案であることが判明した。

福富家の第八代当主である章次の娘（五女<sup>2)</sup>）ヒロは、明治四十年十一月より明治四十二年四月まで、福光村（当時）にあった福光尋常小学校に代用教員として勤務したことが記録に残されている<sup>3)</sup>。またその当時、

同校の校長は「佐田富太」<sup>4</sup>という人物であり、これが資料中いくつか見える押印「佐田」に一致する。したがって、この文書は明治四十一年度の二学期に計画され、また実施されたであろう授業の指導案の原本そのものであると判断した。以後、この文書を「島根県福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』」と呼ぶこととし、明治末期の教育実践の実態を知る貴重な資料として認め、ここに翻刻を行うものである（所蔵元である国立歴史民俗博物館には翻刻発表の許諾を得ている）。なお、ここでの翻刻は国語科に相当する記述の部分に限って行い、算数科部分は別の機会に譲ることとする。

翻刻に先立って概略を紹介しておきたい。

半紙二ツ折に縦書きで、筆によって書かれている。総丁数は表書きを含めて四十八丁にわたる。内、四十一丁表までが国語科の「教授案」である。「第一週」より始まり、週単位にまとめられ、「第十五週」で終わる。週の記載には「自○月○日／至○月○日」と日付が書かれ、その上部に「佐田」の印、下部に「福富」の印が押されている。各曜日ごとに一時間或いは二時間の「案」が書かれている。読方の案には「題目」が示されており、これは今日で言う「教材名」に相当するものである。その題目は当時使用された第一期国定読本『尋常小學讀本』巻三の第十五課より、巻四の第八課までの教材名に一致する。したがって、学年は尋常科第二学年であることがわかる。読方・綴方の割合は、読方が毎日一時間であるのに対して、綴方の実施日・時間は一定性がないがほぼ週一時間程度である。先に述べた日に二時間分の立案は、一日に読方・綴方が両方とも計画された場合のことである。

先にも述べたように、この「教授案」は明治末期の国語教育実践の実態を知るに貴重な資料であるが、「実践」「実態」ということにももう少し詳しく言及しておきたい。

近代国語教育の歴史的跡づけは、これまで多くの先人によって行われてきた。石井庄司著『近代国語教育論史』<sup>5</sup>、増淵恒吉他編『国語教育史資料』<sup>6</sup>、野地潤家他編『作文・綴り方教育史資料』<sup>7</sup>、滑川道夫著『日本作文綴方教育史』<sup>8</sup>など、数多くの書物があり、これに「戦後」など時期の限定を加えた研究書も加えれば枚挙にいとまがない。しかしながらこれらの先行研究は「制度史」「理論史」的な側面に偏りをもつものが少なく、授業実践という最も末端、細部にまで分け入った研究は、その資料の入手が今や困難であるなどの理由から、未開拓であると言わざるを得ない。研究の対象とする時代を遡れば遡るほど、その傾向は顕著である。

その意味で、このように一地方の一教師が書き残した「教授案」の原本を見ることができるのは大変貴重であり、且つ意味のあることと言えるだろう。まして、これは島根県内として見てもまた、一地方の事例であって、しかも「教育研究会」のような公の場に示されたものでもなく毎日の地道な計画・記録の積み重ねである。またそれを立案したであろう教師が、「代用教員」であって、師範学校等で当時の最先端の教育理論・実践を学んだ教師ではおそらくないことも、「実態」の貴重な要素として考えられるのである。<sup>9</sup>

（注）

（1）『国立歴史民俗博物館研究報告』、第三十一集、一〜二四頁、一九九一年（平成三年）。

(2) 筆者(昌子)は、平成八年五月、現温泉津町福光地区において現地調査を行った。その結果、福富家は既に現地にはなく、福富ヒロの正確な正没年や当時の家庭状況については知る手がかりがない。が、現地に残る福富家の墓石から、ヒロが章次の五女であること、明治四十一年当時二十才前半であったことの推測を得た。

なお「福富」は本来は「富」である。現地では現在「福富」姓が多いが、福富家からの分家として区別する意味で「福富」の字を用いたのであるということである。

この現地調査については、温泉津町立福波小学校、同校校長勝田治男氏、福光地区在住富吉脩氏、同町上村在住藤谷崇文氏のご協力を得た。記して感謝申し上げる。

(3) 温泉津町立福波小学校『福波小学校誌』一九八七(昭和六二)年に当該の記録が残されている。

(4) (3)に同じ。

(5) 一九八三(昭和五八)年、明治図書。

(6) 一九八一(昭和五六)年、東京法令。

(7) 一九七一(昭和四六)年、桜楓社。

(8) 一九七八(昭和五三)年、国土社。

(9) 但し、明治中期の島根県の教育事情を調べたところ、教授案は勤務上の上司への提出義務を伴うものであったことが、島根県教育委員会『島根県近代教育史』(一九七八(昭和五三)年)によって知られ(これによって「佐田」印の意味も明らかになるが)福富ヒロの完全な個人立案とは考えにくく、校長や訓導の指導の下に立案されたものと見る方がより自然であろう。

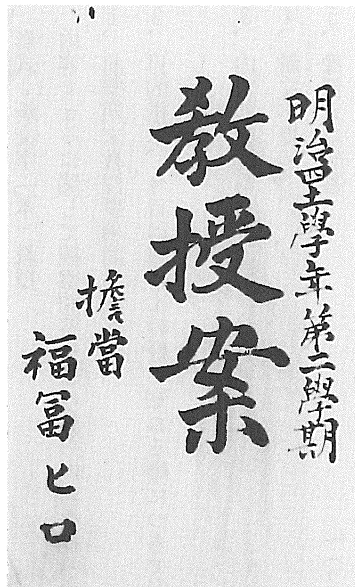
また、「島根県私立教育會」という、県内教職員有志によって結成された

島根県瀨摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』(田中・昌子)

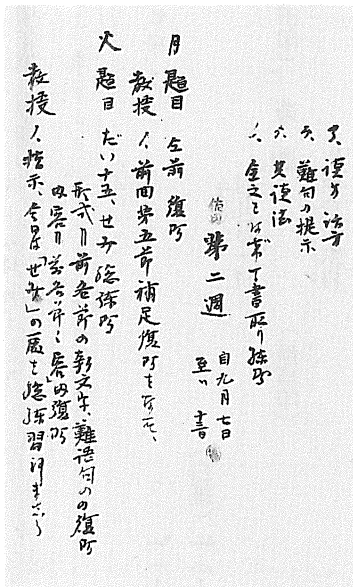
私設教育研究団体があり、同会発行の『島根県私立教育會雑誌』(明治十八年二月発刊、大正期に入ってから『島根教育』と改称)によって授業方法や理論についての研究が一般に広められていた。同誌は当時かなりの割合の教師に読まれていたことにも注意しておくべきであろう。

(以上 文責 昌子)

福富ヒロ『教授案』表紙



福富ヒロ『教授案』第4丁裏



島根県瀬摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

二、島根県瀬摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』翻刻

書誌

本書は国立歴史民俗博物館所蔵の「石見国瀬摩郡福光下村 福富家文書」に含まれているもので（一九九二年同館発行同文書目録一四七頁所載 分類番号八七〇）、半紙二つ折、縦二五センチメートル、横一八センチメートル、墨付四六丁の冊子である。記入はすべて毛筆。第一丁を表紙とし、表に、

明治四十一年第二学期「教授案」擔當「福富ヒロ

（「」は改行箇所を示す。前頁写真参照）

と記し、裏は無記入、第二丁表から第四一丁表までに国語の教授案が、第四三丁表から、第四六丁裏までに算数の教授案が記されている（第四二丁裏は無記入）。ここには国語の教授案の全部を翻刻した。

凡例

- 一、翻刻にあたってはできるだけ原文に忠実にとつとめたが、略体字、異体字及び変体仮名は現代通行の字体に改めた。
- 一、誤字、脱字と見られる部分もそのままに翻刻し、ママ書きを付した。
- 一、原本の丁移りは「」で示し、（ ）内に表紙を含めて数えた丁番号を記した。各丁の表裏の別はそれぞれ「オ」「ウ」で示した。
- 一、翻刻に表し得なかったこと及び参考事項等について末尾に注記した。

翻刻本文

明治四十一年第二学期

教授案

擔當

福富ヒロ

（白紙）

自九月一日

（佐田印） 第一週 （福富印）

至全 六日

火 題目 だい十五、せみ、第一節

形式Ⅱ新文字「木」教授

内容Ⅱせみに関して観察問答を試み其の内容を摘示す

教授 1、前学期末教授事項簡易問答

2、目的指示、今日は皆さんの好く知れる蟬につきて勉強致

しましう

3、内容観察問答

4、新文字提示

5、豫習大意問答

6、讀方 話方

7、斉讀練習

8、本文を離れて壇上談話練習

9、全文をあげて書取り練習

水 題目 全前 第二節

形式Ⅱ新文字「上、土」難句「はじめ、あつくになると」等

』（2オ）

教授

内容Ⅱせみの冬は土中にありて夏に至り上に出て来る理由  
など問答なしつゝ内容を知らしむ

教授

- 1、前回復習問答
- 2、指示 昨日の續きを調べん
- 3、内容問答
- 4、新文字提示
- 5、豫習大意問答
- 6、讀方 話方
- 7、難句ノ提示、及び使用練習
- 8、讀方 話方
- 9、共讀法
- 11、短句を口唱して書取練習

木 題目

全前 第三節

形式Ⅱ難句、「人ハ之れを」「ぬけがら」等教授

内容Ⅱせみのぬけがらにつき簡易説明を加へ其の土中より

出で外氣にふれていかなる変化(3オ)をきたす

やを知らしむ

- ② 1、前回復習問答

2、指示、今日はせみの着物につきておもしろい話のところ

を調べましょう

3、豫習大意問答

4、内容簡易説明

5、讀方 話方

島根県邇摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』(田中・昌子)

6、難句の意義及び使用練習

7、讀方 話方

8、達讀練習

9、全文の書取り

金 題目

全前 第四節

形式Ⅱ既授難句の復習

内容Ⅱ既授の内容につき更に補足問答を試む

教授 1、前回復習問答

2、蟬に関する談話(各児の経験談)をなさしめ兼ねて之れ  
に關する質問を受く

土 題目

全前 第五節

形式Ⅱ難句「おもしろがって、そのとき、えだ、みんく

」等意義及使用練習

内容Ⅱ各児の経験により既に熟知せる蟬の啼聲を問答しそ

の内容を摘示す

教授 1、指示、今日は皆さんのよく知れる蟬の啼聲について調べ

ませう

イ二三の児童に蟬の啼聲をなさしむ

2、豫習大意問答

3、讀方 話方

4、難句の提示

5、共讀法

6、全文をあげて書取り練習

『(4オ)』

『(3ウ)』

自九月七日

（佐田印） 第二週 （福富印）

至〃 十三日

月 題目 全前 復習

教授 1、前回第五節補足復習をなす

火 題目 だい十五、せみ 総練習

形式Ⅱ前各節の新文字、難語句の復習

内容Ⅱ前各節の容レ内復習

教授 1、指示、今日は「せみ」の處を総練習致しませう（4ウ）

2、各節の讀方 話方

3、全課の達讀練習

4、次郎と父とを選出して壇上談話練習

5、口唱、短句書取り練習

綴方

火 例題 せみ

文例

イせみは、ふゆには土の中に、はいってゐて、なつに、なると、でき、上のきものをぬぎます。

せみのぬけからは、大きな、はちに、にてゐて、あしか

六ぼんあります、

教授 1、讀本に於て既に授けたる蟬に関して問答す

2、文意の畧□を授く

3、各児石盤に記述せしむ

4、二三の児童に讀ましむ

『(5オ)

木 題目 全前 復習及第二節

形式Ⅱ前回難句補足教授及び第二節教授

内容Ⅱ補足復習及び二節内容教授

『(6オ)

5、中等児の文を板書し批評訂正す  
6、帖簿筆記ハ排す

讀方

水 題目 だい十六 あさがほ 第一節

形式Ⅱ難句「かきね、しぼり、うつくし」等意義及び使用

練習

内容Ⅱあさがほの、花、色、形態、等につき実物觀察、果

實につきて簡易説明、更に人類との關係に渡りて培

養問答をなし其の内容を領得せしむ 『(5ウ)

教授 1、目的指示、今日は皆さんのよく知れるあさがほについて

勉強致しませう

2、実物及び標本につきて觀察問答

イ、皆さんの内には朝顔の花がありますか

ロ、花の色にはどんなものがあるか、形は何に似てゐま

すか

ハ、果実につき簡易説明

ニ、人は何故に之れを垣根に培養しますか。朝とく起き

て美しい朝顔の花見れば如何なる心地するや

3、豫習大意問答及び難句の提示

4、讀方 話方

5、斉讀練習

教授 1、前回復習問答

2、指示、昨日の続きを調べましょう

3、豫習大意問答

4、讀方 話方

5、七五調の意義、及び説明

6、讀方 話方

7、韻を踏みて単調なる作詩練習

8、共讀法

金 題目 ダイ十七 ウミ 第一節

形式||難句「ドツチ、ムカフ」等吟味 『(6ウ)』

内容||挿畫の觀察より導きて「ウミ」なるものの内容を授

く

教授 1、前回復習問答

2、指示、今日は皆さんの好きな「ウミ」に就て學ばん

3、挿畫觀察「海」なるものの内容を授く

4、讀方 話方

5、難句の提示及び之れか吟味

6、讀方 話方

7、口唱短句書取り練習

土 題目 全前 第二節

形式||新文字「川」難句「イケナド、チガツテアヲアヲ」

等意義及使用練習

内容||前回觀察問答に訴へてその海の内容を知らしむ

『(7オ)』

教授 1、前回復習問答

2、指示、今日昨日の続きを調べん

3、新文字の提示

4、豫習大意問答

5、讀方 話方

6、難句の吟味

7、齊讀練習

8、全文をあげて書取り練習

9、各児書取り文を讀て朗讀練習

自九月十四日

(佐田印) 第三週 (福富印)

至〃 二十日

月 題目 全前 第三節 『(7ウ)』

形式||難語句、「スナジ、ヨセテキテ、アラツテ」等、意

義及び使用練習

内容||嘗て海辺にて遊びたる児童の經驗談より導きて其の

内容を授く

教授 1、前回復習問答

2、指示、今日は、海の波打ちきはで遊んでみるとどんな心

地かするか、其のところを調べて見ましょう

3、随意児童の海岸に於ける經驗談

4、豫習大意問答

5、讀方 話方

6、難句の吟味

7、壇上達讀練習

8、本文を離れて壇上談話練習

9、短句口唱書取練習

火 題目 全前 第四節

』（8オ）

形式Ⅱ難句「ココデ、キレイナ、ヒロッターリ」、新文字

「水」等、教授及び應用

内容Ⅱ前例により、児童の海浜に於ける經驗談より導きて

内容を会得せしむ

教授

1、前回復習問答

2、指示、今日は皆さん、のすきな、海辺て色々面白遊

びするところを調べませう

3、皆さんは浜辺て遊ぶと、どんなものか目につきますか

4、貝殻や、小石にはどんな、形態のものがありますか又何

に使用しますか

5、夏の暑ひ時人か海て泳いだり体を磨擦したりしますか、

あれを何と云ひますか

6、海水浴は人体にどんな効能があるか

7、豫習大意問答及び新文字提示

』（8ウ）

8、讀方 話方

9、難句の吟味

10、讀方 話方

11、本文をはなれて壇上談話練習

12、斉讀練習

13、新字、及難句口唱書取り練習

火 題例、あさかほ、

綴方

1、文例、

(イ)、あさかほは、かきねに、つるを、まきつけてゐます。

あさ、はやく、おきて、みます、あかやしろや

』（9オ）

しぼりのはなが、きれいにさいて、わたくしらを、

むかへてくれます、

ロ、あさかほは、あかや、しろや、しぼりやいろくの

花かさいて、たいそーきれいです、

教授

1、已授あさかほの觀察問答

2、時間の都合、或は児童の着想如何によりて前文例の孰れ

かを適用し各児石盤に記述せしむ

3、二三児に讀ましめ、中等児のものを板書、批評訂正す

4、適宜讀書帖に記載せしむ

5、帳簿によりて共讀練習

讀方

水 題目

全前 第五節

』（9ウ）

形式Ⅱ難句「ソノホカ、イロイロ、」等吟味

内容Ⅱ海の觀察問答より得たる其の魚貝海藻より導きて、

挿画の觀察。其内容を明瞭ならしむ

教授

1、前回復習問答

2、指示、今日は皆さんのすきな、魚や貝のところを調べて

見ま<sup>ミ</sup>しう



3、豫習大意問答

4、讀方 話方

5、難句の意義及び之れを使用して綴方練習

6、壇上達讀練習

7、本文をはなれて壇上談話練習

8、齊讀練習

9、全文をあげて書取り練習

10、整理形式、内容問答

木 題目、ダイ十七 ウミ 総練習

形式||前例形式事項吟味

内容||全前 内容事項提示

教授 1、海につきての問答

2、指示、今日は「ウミ」の處総練習を致しましょう

3、各節の讀方、談方

4、全文を通じて讀方談方

5、形式事項吟味

金 題目 だい十八 からすとはまぐり

病氣のため早退

土 全上 早退

自九月廿一日

(佐田印) 第四週

至九月廿七日

(福富印)

月 病氣のため欠勤

火 題目 だい十八 からすとはまぐり

総練習

形式||新字「下」難句「あつまつて、なかなか」とーと、

そのうちに、等復習吟味

内容||既習問答より、ひきて彼のからすの如くあくまでも

辛抱強からんことを話し聞かしむ

教授 1、前各節の復習問答

2、指示、今日は皆さんか外の先生に教はった所を総練習し

てみましょう

3、各節の讀方 話方

4、新文字、難句の吟味

5、全体の讀方、話方

6、本文をはなれ壇上話方練習

7、口唱難句書取り練習

水 祭日

木 題目 タイ十九 ブドー 第一節

形式||難句「マー、ミゴトナ、オヂイサン」(11ウ) サシ

キ、等、意義及び使用練習

内容||挿画の觀察より導きて凡てちゆもくは年数をへざれ

はその成長と収穫とを得る能はさることを知らしめ、

猶ほ更に祖先の大切なことを簡易話し聞かしむ

教授 1、指示、今日はぶどーのことに就いて調べましよう

2、挿画觀察の余備としてぶどーに関し種々の発問を試み、

而して挿画と比較對照せしむ

3、本節の豫習大意問答

イ、その葡萄を植えたのは太郎さんの誰れにあたる人で

島根県遷摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

すか

ロ、おぢいさんとは、どんな方ですか、皆さんには内に  
祖父母様かおられますか 『(12オ)』

ハ、太郎さんのおぢいさんが、葡萄のさしきしたのは誰  
れの為めを思っていますか

4、読方 話方

5、難句の吟味及び使用練習

6、達読練習

7、本文をはなれて話方練習

8、斉讀

9、口唱短句書取練習

金 題目

自第五週より至第七週迄病氣欠勤

自十月十九日

『(12ウ)』

(佐田印)

第八週

至〃 廿五日

(福富印)

讀方

月 題目 新書卷四 だいにこたろーのむら 第一節

形式||新文字「村、百」難句「そのうちに、かはらやねの

いへが、三げんあります」「ときどき」等吟味

内容||挿画の觀察より入り主として村役場と村民との關係

及び學校、駐在所等各々異にせる点を容易に説明、

而して兒童村内と小太郎の村町等比較對照してその

内容を授く

教授1、新書に移る心得等の注意を與ふ

『(13オ)』

2、目的指示 今日はお太郎さんの村について調べん

3、新文字提示及び豫習大意問答

4、讀方—斉讀

5、内容提示

イ、小太郎の村には家か何家あるか、・・・その内三家の瓦

ぶきの家はどこへなるか

ロ、小太郎のお父様は何の役を勤めて在らるか・・・その

村長か時々學校へ被入るのは何の故なるか

ハ、かくして役場は村民のために非常なる労苦を執るなる関

係説明、且その役員につきて、

『(13ウ)』

ニ、駐在所は警察との聯絡を知らしめ巡查の職務に関する大

要を問答してその必要なる以所を知らしむ且査査に對す

る心得をも合せて

ホ、いかなる村と雖も大抵、役場、學校、駐在所の必要なる

ことを知らしめ尠くとも村の建物は之れと民家等よりな

ることを話し聞かしむ

6、讀方 話方

7、共讀、及び難句の吟味

8、形式事項中、新文字及び難句、口唱書取り

綴方

月 文題 きく。

1、文例

『(14オ)』

イ、きくには、あか、しろ、などのいろいろなはなかりありま

す。かきねにうえるとたいそーきれいです。  
教授1、きくの花につき各児之知れるところ問答

2、文意組織問答

3、既に一個の組織せるものを各児暗唱せしむ

4、各児石盤に記述せしむ

5、中等児之もの板書して批評訂正す

6、訂正せるものを、個讀或は共讀せしむ

7、帳簿記載は后時となして検閲を試みんとす 『(14ウ)』

讀方

## 火 題目 全前 第二節

形式Ⅱ難句「しんせつ。ていねい。はやりやまい」等教授

内容Ⅱ児童の現状に比較して小太郎の村の先生、巡查等が

いかにその斯道のために尽しつゝあるかを知らしむ

教授1、前回復習問答

2、目的指示、今日は小太郎の村の先生、巡查等はどうな人か

それを調べてみましょう

3、形式事項中の難句、問答教授

4、本節讀方 話方 『(15オ)』

5、斉讀

7、壇上談話練習Ⅱ本文を離れて

8、全文をあげて速寫練習

9、速寫せしものを達讀練習

## 水 題目 全前 第三節

形式Ⅱ新文字「家」、難語句「しあはせ、あんしん」等の

意義吟味、及び應用

内容Ⅱかくて、平和なる孤村に起臥せる小太郎等の如何に

幸福なるべきかを知らしむ

教授1、前回復習問答

2、目的指示、今日は小太郎等かいかなる風に暮らしてゐるか

そのところを調べて見ましょう 『(15ウ)』

3、新文字「家」の教授

4、豫習大意問答

5、讀方 話方

6、難句の提示及び之れか應用

7、讀方 話方

8、本文をはなれて談方練習

9、全文の書取り及び之れを斉讀せしむ

木 題目 だい一、こたろーのむら総練習

形式Ⅱ新字「村、百、家」難句「かはらやね、みまはる、

はやりやまい、しあはせ」等暗書

内容Ⅱ小太郎の村はいかなる組織よりなりて村民の如何に

生活をなしつゝあるかを復習す、

教授1、目的指示、今日はだい一の総練習せん 『(16オ)』

2、各節内容問答

3、各節の讀方 話方

4、全体の讀方 話方

5、難語句の意義問答

6、壇上達讀練習

島根県遊摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

- 7、更に本文をはなれて談方練習
- 8、形式事項中、新文字及び難句の暗書

綴方

木 文題 ことらゝの村

- 1、文例

』（16ウ）

イ、それですから、どの家でも安心して、ねたり、おきたり、はたらいたりすることがてきます。かういふ村にある、ことらゝらは、しあはせではありませんか。

教授1、前文例を口唱して各児石盤に記述せしむ

- 2、二三児に讀ましむ（但し之れは讀本文中のある一章部なり）

- 3、中等のものを板書して批評訂正す、

- 4、更に句点のうち方を吟味して之れを正す

- 5、讀ましめ話さしむ

- 6、「しあはせではありませんか」と「あります」の比較

』（17オ）

金 題目 ダイニ、ウマトウシ第一節

形式||新文字「車」難語句、「カッターアリマス」「スルコ

トモデキマス」等意義の吟味及び應用、

内容||馬に関して児童の知れる所を問答し且つ教えなどし

てその内容を明瞭ならしむ

教授1、目的指示、今日は皆さんが好く知れる馬に就て調べて見ま

しう

- 2、内容問答

- 3、形式事項提示

- 4、豫習大意問答

- 5、讀方 話方

- 6、難句の吟味及び應用

- 7、本文をはなれて壇上談話練習

- 8、斉讀

- 9、新文字、難句、口唱書取り練習

土 題目 波積小学校へ出張

自十月廿六日

(佐田印) 第九週

(福富印)

至十一月一日

月 題目 全前 第二節

形式||新字「牛」難句「マグサ。カッターアリマス。マガッ

テキル」等意義及び應用

内容||口唱して各自石盤に速写せしめ、誤字及び洩字、句

点など批評訂正す、

教授1、前回復習問答

- 2、指示、今日は前の續きを口唱しますから奇麗に書き取ッて

頂きましう

- 3、第二節口唱して速写せしむ

- 4、速写文を讀ましむ

- 5、中等児のものを板して批評訂正

- 6、新文字「牛」の提示、及句点訂正

- 7、各児石盤のもの誤謬訂正

- 8、讀ましめ話さしむ

』（18オ）

』（17ウ）

9、難句の意義及び應用練習

10、短句口唱書取り

火 題目 全前二節觀察教授

形式Ⅱ既授の新字、難句の復習

内容Ⅱ既授馬と牛とを比較對照してその類似せると異なる

点とを問答し且つ牛に関する簡易説明を授く

教授1、前回復習問答

2、指示、今日皆さんのよく知れる牛のことにつき本をはなれて調べて見まましう

て調べて見まましう

3、「牛」―を提示して左の問答をなす

イ、牛と馬との頭部の比較より初め全体に渡りての形態を比

較對照問答

ロ、人類と牛との關係及び牛乳と、牛肉との區別を問答教授

をなす

4、全体をまとめて話さしむ

『(19オ)

5、新文字、難句の復習

6、讀方、話方及び達讀練習

水 題目 全前第三節

形式Ⅱ新文字「力」難句「ビョーキ。ヨージョー」等教授

及び意義

内容Ⅱ既授牛乳、牛肉等の効能を問答し本文を提示して更

に実用を明瞭ならしむ

教授1、前回復習問答

2、目的指示、今日は小太郎さんか病氣の時どんな養生をした

かその處を調べて見まましう

3、容内問答

4、新文字、難句の提示

5、讀方 話方

6、難句、ビョーキ、ヨージョーの吟味及び使用練習

7、讀方 話方

8、本文をはなれて談方

9、達讀

10、短句口唱書取り練習

木 題目 今村鎮守祭のため児童引率祭禮參拜

金 祭禮臨時休業

土 迹摩郡教育研究會当校にて開始のため児童休業

自十一月二日

(佐田印) 第十週

(福富印)

至〃 八日

『(20オ)

月 題目 ダイニ、ウマトウシ第四節

形式Ⅱ新字「田」難句「ウエル。カリイレル」等教授及び

吟味

内容畧す

教授1、前回復習問答

2、目的指示、今日は稲かりや、稲植ゑる時牛や馬がどんなに

御手傳いするかそれを調べて見やう

3、新文字提示

4、豫習大意問答

## 5、讀方 話方

## 6、難句の吟味

## 7、達讀練習

## 8、全文をあげて書取り練習

## 9、書取りたるものを更に讀ましめ話さしむ

火 十一月三日 天長之佳節、謹みて拝賀の式に列す

水 題目 ダイニ ウマトウシ、の総練習

形式Ⅱ各節新文字、及び各難句の復習をなす

内容Ⅱ全上内容を研究してその記憶を明瞭ならしむ且ツ臨

機討論題を提出志て討議せしむ

教授1、前回復習問答

## 2、指示、今日はダイニ全体の復習しましう

## 3、各節内容問答

## 4、各節の讀方話方

## 5、全節の讀方話方

## 6、難句の吟味及び應用

## 7、書取練習・車、牛、力、田

## 8、討論題・牛と、うまとは、どちらがおほくやくにたつか

## 9、結議・・・孰れもかぐべからざる家畜なることを適示す、

木 題目 だい三 富士山 第一節

形式Ⅱ新字、「高、山」難句「かっこー。ちよーど」等教

授、及び意義。應用

内容Ⅱ先づ富岳の絵画を利用して児童の嘗て』（21ウ）見

たり聞たることを、想起せしめ、適宜問答によりて

』（20ウ）

』（21オ）

木 文題 牛

## 1、文例

イ、牛は田ニデテハタライタリ、オモイニモツヲ、ハコン

ダリ車ヲ、ヒイタリシマス。マタ牛のチチトニクトハ、

タイソーヂヨーニナルモノデス 』（22ウ）

教授1、指示、今日その絵の山に就て調べて見ましう

イ、その山の名を知つてゐますか・・・富士山は何形

に似てゐますか

ロ、富士山の頂上には草木なくして麓にのみ森林あるは

何故か・・・然り山頂の寒きことは夏季猶ほ雪の

堪えざるを以ても知らるへし

ハ、かゝる方法より出で、その内容を授く

## 2、新文字「高、山」の教授

## 3、豫習大意問答

## 4、讀方 話方

## 5、難句の吟味及び應用練習

## 6、達讀、及び壇上談話練習

## 7、全文をあげて書取り

## 8、更に書取りたるもの、批評訂正

綴方

』（22オ）

教授1、牛につき既授問答

- 2、文意を概括して言語に発表せしむ
- 3、各自石盤に綴らしむ
- 4、二三児に讀ましめ中等児のものを板書す
- 5、板書せしものにつき批評訂正す
- 6、讀ましめ且つ話さしむ 帳簿記載は畧す

金 題目 だい三 富士山 第二節

形式||新文字、「穴」難句、「むかし。このはなし」等教

授及び之れか吟味

内容||富士山は頂上に至るほど寒烈なること及びその最大

頂天には穴あて昔は活火山なりし事など簡易説明を

なす 『(23オ)』

教授1、前回復習問答

- 2、本節内容事項簡易説明併せて新文字「穴」の教授
- 3、指示 今日は今お話ししたことを書いてあるところを調べて見ましよう
- 4、豫習大意問答
- 5、讀方 話方
- 6、難句の吟味
- 7、達讀
- 8、本文をはなれて話方練習
- 9、新字、難句の書取り

土 題目 空前 第三節

形式||新字「白」難句「それで。そして。これをみて。お

1」等教授及び吟味、應用、

内容||文吉が先生に富士山のお話しをきゝゑるとその模形を造りたる有様とその思考の面白き様とを知らしむ

教授1、已授内容問答

- 2、指示、今日は富士山の所の挿画について調べて見ましよう
- 3、挿画觀察

イ、この子は今何をなしつゝあるか。・・・この子とは

こにゐるか野原か、家か。

ロ、家の庭なることは何にて判明するか

ハ、この子のつくりし山は何山にてゐるか 『(24オ)』

4、本文提示、新字「白」

5、難句の吟味

6、本文の話方

7、本文全体の書取り

8、書取りしものを讀ましめ誤謬訂正

9、更に讀方 話方

自十一月九日

第十一週

至〃 十五日

月 題目 だい三 富士山 総練習

形式||新字「山、高、穴、白」難句「かっこー。でもでは、さかさま」等の吟味及び應用』(24ウ)して

使用練習

内容||全体の復習外に尚ほ山と人類との關係を問答簡易説

明をなす

教授1、指示、今日は富士山全体を復習せん

2、本課各節の讀方 話方

3、全文を通じて讀方 話方

4、形式中の難句新字を口唱書取らしめ且つ適宜應用して之に  
より短文中に使用せしむ

5、山人類とに關して問答を試み且話し聞かしむ

イ、山は樹木を吾人に供給す

ロ、山は水源涵養の利あり

ハ、山は洪水の原因となる害あり

ニ、山は風影をよくす

ホ、山は交通の便あらず

6、右等の談話をなし、更に山のなき國の話をも加へて一層山の利益あることを知らしむ

火 題目 だい四 天長節 第二節

形式||新文字「生」難句「へいか、おいはひ、おめでたい」

等教授及び吟味

内容||天長節の由来及びその当日の心得等問答し且つこっ

きとおいはひ日との關係を簡易説明す』(25ウ)

教授1、指示、今日皆さんか好く知ってゐる天長節につき調べて見  
ましよう

2、天長節の由来及び当日の心得問答及びこっきの簡易説明併  
せて新文字「生」の教授

3、豫習大意問答

4、讀方 話方

5、難句の吟味

イ、「へいか」とは至尊の外に用ふべからざる語なること  
を知らしむその他の語句は卑近の例をあげて説明せし  
む

6、達讀

7、壇上談話練習

8、新字、難句の書取り

水 題目 全前 第一節補習せしむ

教授1、末段に於て全体の書取りをせしめ更に之につきて誤謬訂正  
す

木 題目 全前 第二節

形式||新文字「太郎」の教授

内容||挿画觀察より本文の内容を授け併せて觀兵式につき  
話し聞かしむ

教授1、目的指示、今日は本の挿画につきて調べて見よ

2、挿画觀察

3、新文字、教授及豫習大意問答

4、讀方 話方

5、本文と挿画とを對照して挿画中、太郎文吉の兩名をあてし  
め尚此の絵につきて、わかりたる事柄をいはしむ

6、文中の一段を書取らしむ

7、更に之れによりて批評を試む

8、本文をはなれて太郎と文吉の談話練習

』(26ウ)

』(26オ)



木 文題 ふじさん 綴方

1、文例

『(27オ)

イ、ふじさんは日本で二はめの高い山です、そして、なつでもゆきがあります。

またいちばん上のほーには大きな穴があります、むかしはそこからけむりかでてゐました

教授1、讀本にて既授富士山の問答をなす、

2、文意をまとめて言はしむ

3、全体に口唱せしめ漢字の提示をなす

4、綴方帖にたゞちに綴り出さしむ

5、全児童のものを集め添削して後日返附

綴方

金 題目

⑥

『(27ウ)

形式Ⅱ難句「さっき、なされたでせう、あつめて、ぼく」

等吟味及び使用練習

内容Ⅱ既授観兵式の絵画を見せしめ本節内容と比較対照更

にその記憶を明瞭ならしむ

教授1、前回復習問答

2、指示、今日は前お話して置いた観兵式の事のかいてあると

ころを調べて見ませう

3、豫習大意問答

4、讀方 話方

5、難句の吟味及び使用練習

6、斉讀

7、太郎と文吉とを出して對話練習

『(28オ)

8、短句口唱書取り練習

土 題目

教授1、空前 第三節補習教授を試む

自十一月十六日

第十二週

至〃 廿二日

綴方

月 題目 天長節 総練習

形式Ⅱ新文字、難句の吟味復習

内容Ⅱ前各節に於ける内容を反復して尚ほ補欠復習をなす

『(28ウ)

教授1、指示、今日はてんちよーせつの所を総練しやう

2、天長節に関して内容問答

3、本課各節の讀方 話方

4、全課を通じて讀方 話方

5、新文字、「生れ、太郎」の吟味

6、難句「おめでたい、おいはひ、おしゃしん、ごらんになる、

おいでなさい」等意義及び應用

7、太郎と文吉との談話練習

8、各列に各一節宛の斉讀

9、短句口唱書取り練習

火 題目 ダイ五 東京(一) 第一節

『(29オ)

島根県瀨摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

形式Ⅱ新字「日本」難句、「キュージョー、ニギヤカ

オスマイ、ゴテン」等教授及意義

内容Ⅱ東京府ニ付キテノ談話及び宮城の講話等絵画を利用

してその想像を興味とを興へ以て本節の内容を授く

教授1、目的指示、今日は東京のことに就而調べて見やう

- 2、東京府につき適宜問答を試み、つゝ絵画を示して談話をなし聞かしむ

- 3、更に宮城に関しては敬意と尊重を拂ひて講話を興ふ

- 4、新字「日本」の提示及び本節豫習大意問答

- 5、讀方 話方 『(29ウ)』

- 6、本文をはなれて話方練習

- 7、達讀

- 8、左の文句を書取らしむ

イ、東京ハ、キュージョーノアルトコロデ、日本デイチバン、ニギヤカナトコロデス。

- 9、書取りしものによりて更に吟味をなす

### 水 題目 全前 第二節

形式Ⅱ難句「オタメ、アレハ、ドゾ」の意義及び使用練習

習

内容Ⅱ絵画を利用して、楠公の事蹟の概要を話し聞かしめ

之れよりひいて銅像の構造建築等の模様を話し聞かしむ 『(30オ)』

### 教授1、前回復習問答

- 2、楠公の事蹟ニ付問答なし更に其の概要を話し聞かしめ、併

せて銅像の説明をなす

- 3、本節の豫習

- 4、讀方 話方

- 5、難句の提示及び、吟味

- 6、達讀練習

- 7、本文をはなれて談話練習

### 木 題目 全前 第三節

形式Ⅱ難句「トホリ、リョーカハ、オホセイ」(30ウ)

等意義及び使用練習

内容Ⅱ絵画によりて東京市中の繁華の様を知らしめ、更に

挿画につきて、凡ての交通機関発達の有様を話し聞

かしむまた、往來の、しげきため人道、車道、判然

として区別ある事など知らしめ、その繁昌の度を想像せしむ

像せしむ

### 教授1、前回復習問答

- 2、絵画を示して東京繁華の様を話し聞かしむ

- 4、本節讀方 話方

- 5、挿画の觀察、尚之れと本文との對照

- 6、讀方 話方及び難句の吟味と使用練習

- 7、本文をはなれて談話練習

- 8、齊讀

- 9、短句口唱書取り

『(31オ)』

### 金 題目 全前 第四節

形式Ⅱ新字「店」難句「リップ。キレイ。イロイロ」等吟

味及び應用

内容 商家と位置及び交通等の説明より導きて、銀座通りの繁華にして悉くその商家なることを話し聞かしむ

教授 1、前回復習問答

2、内容事項中の簡易説明

3、新字の提示

4、本節の讀方 話方

5、難句の吟味

6、達讀、及び各列の斉讀

7、新字、難句の書取り

『(31ウ)』

土 題目 ダイ五 東京 総練習

形式 前各節の新字、難句の吟味

内容 各内容吟味

教授 1、本課全体を一讀せしめ挿画二ツに付學びたる事項を談話せしむ

自十一月廿四日

第十三週

至 卅日

『(32オ)』

月 祭日 新嘗祭

火 題目 ダイ六 東京 (二) 觀察教授

目的 本時間は東京に関する歴史の概要を知らしめ併せて

上野公園、及博物館動物園等につき話し聞かしめんとす

教授 1、絵画を示して昔の東京と今時の東京との由来を話し聞かし

む

2、東京の現時の如く繁華になりし理由

イ、宮城……色々の役所……学校……

ロ 大商家……見物すべき名所沢山、且つ之れに』

(32ウ)

吊ふに鉄道線路ありて非常なる便利を得ること

ハ 右各種の原因によりてなる事を説く

3、上野公園の名所舊跡なる話

4、博物館動物園に關しての話

5、最後に、上野、博物館、動物園総括縦覧話をなさしむ

水 題目 全前 第一節

形式 難句「イロイロ、メヅラシイモノノアツメテアルタ

テモノ」意義及び「メヅラシイ」の應用

内容 前觀察教授の復習より入りて挿画と』(33オ) 對照  
その内容を明瞭ならしむ

教授 1、前回復習問答

イ、上野公園にはいかなる建物があるか

ロ、博物館には如何なるものか集められて居るか

ハ、動物園博物館は何故に建てられてゐるか

ニ 上野には三等の建物の外にいかなるものがあるか……

又上野のは何故常に賑ふか

2、指示、今日はその上野の所を読む事にしやう

3、豫習大意問答

4、讀方 話方

島根県瀬摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

5、挿画と本文との比較対照問答 『(33ウ)』

6、達讀練習

7、本文を離れて談話

8、短句口唱書取り

木 題目 全前 第二節

形式||新字「池」難句「マヘノエノヒダリニ、ミエルノハ、

ソノ池デス」等意及び書取り

内容||不忍池畔は上野公園の近くにありてその景色の勝れ

たる又上野の風景を増すなる事を話し絵画を以て之

れを示しその明美の様を想像せしむ

教授1、前回復習問答

『(34オ)』

2、指示、今日は猶ほ東京の名所たる不忍池のことに就而調べ

ん

3、絵画を示して不忍池の話談を聞かしむ

4、本節豫習大意問答

5、讀方 話方及挿画参照

6、不忍池の談話

7、斉讀

8、新文字、難句の口唱書取り練習

金 題目 全前 第三節

形式||新字「寺」難句「リップパナ。コノエハ。』(34ウ)

等教授及び意義、應用、

内容||浅草寺も亦宏大なる建物にして参詣者絶ゆる事なく、

同公園中には多くの見せ物あり観客織るか如し先づ

東京見物に出かくるものは必ず上野、浅草を見舞ふ  
事を話しその内容を授く

教授1、前回復習問答

2、絵画を参照して内容教授併せて新字提示

3、豫習大意問答

4、讀方 話方

5、達讀練習

6、挿画観察して本文と比較対照

7、本文をはなれて談話練習

8、讀方練習(但し朗讀体)

9、新文字、難句の書取り及び應用

土 題目 全前 第四節

形式||新字「花」難句、「ナランデキテ、ココモ」教授及

び意義、應用、

内容||絵画を以て隅田川の花盛りの時節を直観せしめ、且

つボートレース等に適當せる話し聞かしめ、自然観

察の多かる事を想はしむ 『(35ウ)』

教授1、前回復習問答

2、指示、今日は浅草の近辺にある隅田川の事を調べん

3、内容の提示、但し絵画利用

4、新字教授

5、本節を口唱して各自右盤に記載せしむ

6、更に反讀して記載文を訂正せしむ

7、之れによりて讀方 話方

8、共讀練習

9、隅田川の談話をなさしむ

10、新字、難句の吟味を試み、更に之れを利用して綴方練習

自十一月廿九日

第十四週

至十二月 六日

『(36オ)』

月 題目 ダイ六 東京(二) 総練習

病氣欠勤

火 病氣欠勤

水 題目 だい七 ほーねんまつり 第二節

形式||難句「あめもよいかげんにふって、てんきもつづいて」の意義説明せしむ

内容||稲作ニ付兒童の知れる所を問答し而して最もその収

穫を多く得んと欲せば第一に氣候に俟つの外なきこ

とを知らしめ概して農作物は温暖にして湿潤な天氣

を好むものなることを話し聞かしむ 『(36ウ)』

教授1、前回復習問答

2、指示、今日は何故にお米か沢山とれたか何の爲めにほーね

んまつりをするかそこを調べて見やう

3、稲作につき問答且つ説明

4、豫習大意問答

5、讀方 話方

6、難句の説明

7、達讀

8、本文をはなれて壇上話方練習

9、左の書取り

イ、けふはかせもなし、日もよいかげんにさして、たい』

(37オ)

そーあたたかです

10、書取り文の批評訂正

木 題目 全前 第三節

形式||新文字「米。女」難句「ひかれて。いはって」等教

授及び意義。書取り練習

内容||前回復習より導きて挿画觀察問答なしてその内容を

明瞭ならしむ

教授1、前回復習問答

2、指示、今日はお祭りの挿画について調べて見ましよう

3、挿画觀察問答 『(37ウ)』

イ、「ほーねんまつり」とは如何・・・挿画にあるはどこ

の村の祭禮なるか・・・おちよは參詣せしか否か・・・

・・・等

4、新文字提示

5、本文を口唱して各児石盤に記載せしむ

6、記載により批評訂正、且つ讀方 話方

7、本時間は主として書取り練習にあつ

綴方

木 文題 ウエノ

1 文例

島根県遼摩郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

イ、ウエノニハ、ハクブツクワンヤ、ドーブツエンガアリ  
マス。マタサクラノ木ガタクサンアツテ花ノサク』

（38オ）

コロハ、タイソニーギヤカデス。

教授1、已授上野公園觀察問答

- 2、文の講成をなさしむ
- 3、板上に於て共作をなす。更に之によりて批評訂正を試む
- 4、讀ましめ且つ話さしむ
- 5、綴方帖に清書記載せしむ

讀方

金 題目 ほーねんまつり 第四節

形式Ⅱ難句「みんな、そろって」意義及應用』（38ウ）  
 内容Ⅱ既に韻文につきて授けある、その七五調なることを  
 問答なしつゝ普通文と異なる点を明瞭ならしめ、且  
 之れを口語体文に改作せしむ

教授1、前回復習問答

- 2、指示、今日はお祭りのことを歌にした所を調べて見ましう
- 3、本節豫習大意問答
- 4、讀方 話方
- 5、韻文の意義、及び難句の吟味
- 6、朗讀練習
- 7、口語体文に改作

』（39オ）

イ、ことしもお米がたくさんとれました、それですからそ  
 のおいはひにほーねんまつりをしてゐるのですいまお

土 題目 全前 第五節

ちよの村のものは、わかいものも、としよりもことも、  
 みんな、そろってお宮まいりしてゐます。

8、改作文につき批評訂正を試む

形式Ⅱ難句「まふ（もー）」その区別及びあちら。こちら」  
 との異意併せて應用  
 内容Ⅱ前例によりてその内容を授く

教授1、前回復習問答

- 2、本節豫習大意問答
- 3、讀方 話方
- 4、難句の提示及び應用
- 5、達讀、及び個人朗讀練習
- 6、本節を口語体文に改作せしむ

』（39ウ）

- イ、お宮のこちらのほーでは、どんくつゞみの、をとが  
 して、あちらのほーでは、わいわい人がさはいでるま  
 す。こちらのほーでは、おかぐらがあつてあちらのほ  
 は、すまふが、あります、それですから人がはやくい  
 かうといつていそいでまゐります。

- 7、改文につき批評訂正
- 8、本課を聞記壇上朗讀

』（40オ）

自十二月七日

第十五週

至〃 十三日

月 題目 だい七 ほーねんまつり 総練

形式Ⅱ新文字及び各節の難句吟味併せて韻文の形式につきても吟味をなす

内容Ⅱ各節に示したる内容を反復練習なし更に普通文朗読と、韻文朗読との比較をなす

### 教授1、前回復習問答

- 2、指示、今日は総練習致しませう
- 3、先づ韻文より復習に入る
- 4、第一節、第二節の讀方話方練習
- 5、更に韻文節の形式につき吟味 『(40ウ)』
- 6、應用として適宜一節を共作す、(但し臨期による)
- 7、普通文朗讀と韻文朗讀の比較
- 8、新字、難句を使用し、書取り練習

火 題目 だい八 がん

(以下 余白) 『(41オ)』

### (注)

- (1) 佐田印は当時の福光尋常小学校校長佐田富太の印であろう。
- (2) 「教授」の見出しを欠く。
- (3) 4、5の入れ替えを指示すると見られる符号あり。
- (4) 題目の記載を欠く。次週よりの病氣欠勤と関連するのであろうか。
- (5) この週以後、佐田印、福富印を欠く。
- (6) 題目の記載を欠く。
- (7) 題目の下に「だい四てんちよーせつ総練」と記して朱線にてミセケチ。次行に「形式Ⅱ」と記して同じく朱線にてミセケチ。これらは次の月曜の題目に相当する。

## 三、解説

### 1 福富ヒロ『教授案』の特質について

第一期国定国語読本『尋常小学読本』の教授案としては、ここに翻刻した福富ヒロ作成のものに先行して、富永岩太郎著『書取及綴方を中心としたる国語教授法 中巻』(一九〇四(明治三七)年、学海指針社刊)並びに『島根縣師範学校附属小学校教授細目』(一九〇四(明治三七)年、島根縣師範学校附属小学校刊)に収められたものが管見に入っている。ただしこの二書はいずれも『尋常小学読本』の刊行直後(『尋常小学読本』は一九〇三(明治三六)年に刊行され、一九〇四(明治三七)年から使用された)に執筆された机上プランであり、教室の實際を反映したものではない。それに対してここに翻刻した『教授案』は学習者たる児童の實態を熟知した担任教師が實際の教育活動の必要にもとづいて作成したものであり、目前の児童の具体的な反応を前提にして立案されている点で貴重である。以下、この点に焦点を当て、前記二書の場合と比較しながらその特質の一端につき、気づくことを記しておこう。

(1) 『島根縣師範学校附属小学校教授細目』と比較して一九〇四(明治三七)年九月に発行された『島根縣師範学校附属小学校教授細目』は、「修身」「国語」「算術」以下全教科について、第一期国定教科書の教材ごとに(年間二分冊となっていた「国語」の場合は前期用巻一、巻三、巻五、巻七についてのみ。高等科も同様。)教授細目

をまとめたものである。「緒言」に同校主事川上新之助が次のように述べている。「近來の如く教科書の變更多ければ到底完全なる教授細目を見ること難かるべし何となれば教授細目なるものは理想に於てのミ生み出さるべきものにあらずして實地使用したる結果によって更生し其の都度々々完全の域に近寄るべきものなればなり實地使用しても見ず充分なる時を得て考慮したる理想の表出にもあざざる本細目の如きは固より完全なるものにあざざるは勿論なり」と。これはあながち謙遜とばかりは言えないようで、特に国語科においては、一九〇四（明治三七）年四月

よりの国定教科書使用開始を前に、草々にまとめられた感があり、各課文を各々一週間で実施するよう機械的に時間配当を示したに止まっている。福富ヒロの『教授案』で取り扱われている教材と一致するのは『尋常小学読本』巻三の「だい十五 せみ」から「だい十九 ブドー」までの五課にすぎないが、該当課について両者を対応させて一覽すれば左の表の通りである。

附属小学校の机上プランに比べて、福富ヒロの実践が、各教材について、より多くの時間を割いている実態を読み取ることができる。

附小「教授細目」と福富「教授案」との時数対照表

読み方教材 (前略)	『附属小学校教授細目』の場合		福富ヒロの『教授案』の場合	
	実施予定時期	(予定時数)	実施時期	(予定時数)
だい十五せみ	第一学期 第一五週	(凡五時間)	第二学期 第一、二週	(七時間・綴方一を含む)
だい十六あさがほ	第一学期 第一六週	(凡三時間)	第二学期 第二、三週	(三時間・綴方一を含む)
だい十七ウミ	第二学期 第一週	(凡四時間)	第二学期 第二、三週	(六時間)
だい十八からすとはまぐり	第二学期 第二週	(凡五時間)	第二学期 第三、四週	(二時間十? / 欠勤日あり)
だい一九ブドー	第一学期 第三週	(同上)	第二学期 第四、?週	(二時間十? / 欠勤日あり)

(2) 富永岩太郎著『書取及綴方を中心としたる国語教授法 中巻』と比較して

富永岩太郎著『書取及綴方を中心としたる国語教授法 中巻』には、

尋常小学一年から四年までの全学年を通して、『尋常小学読本』巻一から巻八までの全ての教材について教授例が記されている。ここでは、右の表から福富ヒロが力をこめて扱ったと推測される「だい十五せみ」及び「だい十七ウミ」の二課の教授案をとりあげて、富永岩太郎の教授例



と比較してみることにしよう。

「だい十五せみ」について富永岩太郎は右書の中で、教授例を次のように示している。

目的|| 蝉の脱皮することを知らしめ(内容上)、下の漢字を教授す

「上、中、土、木、六」(形式上)

教法|| 綴方話方 蝉の脱皮を観察せしむるか、或は挿圖につき問答し、左例に準じて話方綴方を行ふ。

一、じろーは、うめの木の下で、おもしろいものをみつめました。

二、せみのぬげからは、大きなちのよーで、足が六ぼんあり、また中はからで、せが二つにわれています。

三、せみは、はじめ土の中で大きくなりますが、あつくなると、土の中からでてきて、上のきものをぬぎます。

読方 読方教式第一式(内容より形式に移る法|| 引用者注)によりて讀本を講讀す。

(以下、書取の項あり、例文を七例あげているが省略した。)

「だい十七ウミ」について富永岩太郎は右書の中で、教授例を次のように示している。

目的|| 海濱の景色及び海中に棲息せる魚介を授け(内容上)、リョ

ーシ、スナジ、ウミバタ、ナミガヨセテクル、アシヲアラフ、水ヲアブル、シホケ、タヒ、カレヒ、カヒ、サザエ等の語句

及び下の漢字を授くるにあり「川、水」(形式上)

教法|| 挿圖を廓大したるものを用ゐる問答しつつ、話方綴方を並び行

ひ目的欄に示せる語句漢字を提示すると共に、内容の一斑を會得せしめ、且つ海岸の愉快なる景色及び海の壮大なる眺望につき快感を惹起せしむべし其例左の左し(「左し」は「ごとし」のミスプリントであろう)。(以下例文を七例あげているが省略した。)

学習の目的が「内容」と「形式」の二面から把握され、方法としては観察(実物乃至は挿圖による)問答から入って課文内容を知らしめ、課文をなぞった綴方を書くことが行われている。

福富ヒロの「教授案」も、「せみに関して観察問答を試み其の内容を摘示す」(第一節、本稿四頁)とあるように、大筋でこの流れをとっていることに変わりはない。しかし、福富ヒロの教授案では、「今日は皆さんのよく知れる蝉につきて勉強致しましょう」(棒線は引用者、以下同様。第一節、本稿四頁)、「蝉に関する談話(各自の経験談)をなさしめ兼ねて之れに関する質問を受く」(第四節、本稿五頁)、「各自の経験により既に熟知せる蝉の啼聲を問答しその内容を摘示す」(第五節、本稿五頁)などに見られるように、児童の体験に即した扱いが行われている。このような言辞は富永岩太郎の右書には見られず、この点に福富ヒロの教授案の一つの特徴を見出すことができる。

このことは「だい十七ウミ」の場合にいっそう顕著である。「今日は皆さんのすきな「ウミ」に就て學ばん」(第一節、本稿七頁)、「嘗て海辺にて遊びたる児童の経験談より導きて其の内容を授く」(第三節、本稿七頁)、「今日は、海の波打ちきはで遊んでるとどんな心地がするか、其のところを調べて見ましよう」(第三節、本稿七頁)、「随意児童の海岸に於ける経験談」(第三節、本稿七頁)、「児童の海浜に於ける経験談よ

り導きて内容を会得せしむ」（第四節、本稿八頁）、「今日は皆さん、のすきな、海辺で色々面白い遊びするところを調べませう」（第四節、本稿八頁）、「皆さんは浜辺で遊ぶと、どんなものか目につきますか」（第四節、本稿八頁）などの言辞によくあらわれているように、福富ヒロが、児童の生活実態に根づいた教授法を開発していた様子がうかがえる。福光村は目の前に海のひろがる地域であり、児童らの生活は海と密着していたのであるから、指導者が現実の児童を前にしたとき、このような扱いを構想するのは自然なことであらう。

以上、簡を旨としてわずかに二例について比較したに止まるが、僻遠の小学校の一代用教員の教授案の中に、当時の国語教育界の代表的指導者の著述をしのぐ、すぐれた実践の跡が認められるという事実は色々なことを考えさせてくれる。基本的には指導者が学習者の立場に立ち、実践の中から学ぶ態度を持っていたから可能となったことであろうが、富永岩太郎が右書を著述した一九〇四（明治三七）年（第一期国定読本の開始期）から、福富ヒロがこの授業を行った一九〇八（明治四二）年（第一期国定読本の終期）に至るわが国の国語教育実践の積み重ねが、このような教授法の充実をもたらしてきたのであり、それはやがて次代の理論家に汲み上げられて国語教育の進歩を実現させていったものと推測することができるのである。

## 2 福富ヒロ『教授案』に用いられた指導用語について

本『教授案』には、今日の国語教育界では使われなくなった指導用語が見られるが、それらの用語の内の幾つかは富永岩太郎の右書にも用い

られている。そのことはこれらの用語が当時広く用いられていたことを示すとともに、本『教授案』が富永らの先行研究の影響下にあったことをうかがわせるものである。以下に、主要な用語の使用状況を富永岩太郎の右書から摘記しておこう。

「共讀法」（「共讀體」） 富永岩太郎によれば「師弟共に讀みつゝ、問答する法」のことであって、次のように解説されている。「共讀體と云ふものは行きなりに本を披かせて、教師と児童と一緒に讀んで行くのである。讀んで行く傍に、此の字は、何と讀んで宜からうか。……と質問して、子供に判断させる。さうして其の讀方を、彼等に教へさせるのである。それから、一回子供の讀める様ならば、大體何と云ふことを書いてあるか……と質問して、児童に要領を話させて見る。それから、又本を取りて、……一緒に本を持って、今度は初めから、矢張り此の是れと云ふ詞は、何を指したのであるか、此の其のと云ふ詞は何を指して居るか、此に又と云ふ字のあるのは、何故に使ったか、此の括弧の内は、誰の言を寫したのであると云ふ様に、更に其の文章の部分の性質に就て、細かく問答して判断せしめ、知らねば教へると云ふ様にして、さうして今度は本に就て彼等に講義をさせるのである。」（上巻九四〜九五頁。一九七五年光村図書刊『近代国語教育論大系3』再録版では二六五〜二六六頁）

「共作」（「共作法」） 富永岩太郎は次のように解説している。

「比の方法は、或る一の話を書かすならば、先ず教師が、一口だけ一番先き話を話して、其の句を塗板に書いて置くのである。それから「何々の話を綴って行くには、此の話の先きに、ドウいふ話

を附けたならば宜いか」と云ふことを、全級に向って問ふのである。さうすると、全級の者が、それは斯ういふ話を附けたならば宜からうと云ふことを云ふのである。かくて一人が何とか句を廢いだ時に、皆な者に批評せしめて、決定せしめる。決定をしたところで、「其の話を文字に表はすには、ドウいふ文字を用ふるか」と云って、次に文字の問答をなして、文字まで決定する。この時に、教師は塗板に第二の句を書き添へるのである。それから、第三の句は、ドレだけの話をすれば宜いかと云ふ事を問ひ、それを批評せしめて、其の話を表はす文字を問答して決定する。決定したならば、第三の句を繼ぐと云ふ様にして、以下四五六と續けて、一の文章を成立たしむるのである。それから尚ほ全體を通じて讀ませて見て、悪い所がないかを批評せしめ、決定したならば、清書帳に寫さす。(上巻一二五―一二六頁。『近代国語教育論大系3』再録版では、二七八―二七九頁)

「口唱書き取り」 富永岩太郎の右書には「口唱筆記」という用語が用いられており、次のように細説されている。「これは、耳に聞かせて、手で書かせる方法である。この教式は、時々六ヶしき漢字でも出て来る時には、「サー筆を下して」と言つて、筆を下ろさせ、次に「何々と云ふ漢字の書き道を知つて居るか」と云つて、漢字を問答して、先きに書かせる事もあり、又新しく其處で漢字を教へても宜いのである。で漢字などを教ふる時には、最も都合の宜い方法である。話をするだけづつ筆記して行く、其間にある語を漢字に表せようと思ふ時には、其の漢字の書き方を問答して、知らなかつたならば、教師の方から教ふるのである。この方法に

よれば、漢字の使ひ所も能く判るし、子供の方でも能く其の漢字の性質が判つて来るのである。(上巻一二二―一二三頁。『近代国語教育論大系3』再録版では、二七七―二七八頁)

「読方話方」 富永岩太郎の右書には「教法」の一種として「読方話方」という用語が見られる。二年生の教授例では次のように用いられている。「読方話方 準備として前課を復習し、読方教式第四式(綴方より読方に移る法 引用者注)によりて、新出の漢字を教へつつ各節を追讀して、内容を索出せしめ、批評訂正を加へ、更に全體を一括して表出せしめ、次に内容につき、道德上の見地より、批評説示して自慢の禍原をなすことを悟らしむ。(尋常小学読本卷三 第一四「日とにじ」の第二時)」「(中巻二七九―一八〇頁。『近代国語教育論大系3』には中巻は再録されていない)

「読方話方 實物を觀察せしめ話方によりて、左の要項に概括帰着せしめ、一、松葉は二葉ずつ一所になりて着けること。二、常緑なること。次に教科書の全文を書取らしめ、講読せしむ。(尋常小学読本卷四 第一二「マツノハナシ」の第一時)」「(中巻二一―一頁)

富富ヒロがこれらの用語や教授法一班をどのようにして身につけていたものか、当時の教師養成ないしは教師の自己形成のありようについて明らかにすることは今後の課題である。

#### 引用文献

富永岩太郎(一九〇四)『書取及綴方を中心としたる国語教授法上巻、中巻』

島根県隠岐郡福光尋常小学校・福富ヒロ『教授案』（田中・昌子）

（学海指針社刊。上巻の一部は『近代国語教育論大系3』——一九七五年・光村図書刊——に再録されている。引用は国立国会図書館所蔵本によった。）

謝辞

所蔵文献の翻刻を許された国立歴史民俗博物館ご当局、並びに資料熟覧についてご助力を賜った同博物館の川森博司氏に感謝致します。

（以上 文責 田中）

田中瑩一（国語科教育研究室）

昌子佳広（本学大学院国語教育専修）

（教育学部附属小学校）